OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	就任のご挨拶
Author(s)	山崎, あけみ
Citation	大阪大学看護学雑誌. 2016, 22(1), p. 33-33
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/55394
rights	©大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

就任のご挨拶

2015 年 4 月に生命育成看護科学講座に着任いたしました。

私は、形成期の家族に関する研究を専門としています。大阪府堺市の高等学校を卒業後、看護学を学べる大学が全国に一桁しかなかった時代、高知女子大学（現在の高知県立大学）に進学しました。地方の公立大学でしたが、衛生看護学科（現在の看護学部）には、米国で修士・博士の学位を取得した先生が 3 名おられ、講義・実習・卒業研究指導を通じて刺激を受けました。私自身も海外で看護を学ぶことに漠然とした憧れを抱き、臨床経験を積んだ後に、オレゴン健康科学大学大学院で、看護研究の基礎を学びました。修士課程は 1 学年 70 名、うち 45 名程度が、私の所属した家族看護学専攻で、修了後、大半のクラスメートはオレゴン州の僻地にファミリーナースプラクティショナーとして巣立っていきました。私は、実習は必須科目の最低限にとどめ、副専攻に社会学を選択しました。当時はよくわからないまま、課題に追われておりましたが、カフェテリアでの観察からフィールドノーツをつける、ファミリーインタビューの真似事をするなど、人文系の質的研究手法のトレーニングを積みました。当時「ノーツは若いほど鮮やかに描けるし訓練のしがいがある。院生はもう頭が固いからダメ」と言われ憤慨したこともありましたが、先日学部 2 回生の小児対象論 II で、「街で出会った子どもと大人」というフィールドワークの課題を出したとき、本当に若く感受性の高い人たちのノーツは違うと実感しました。

修士卒業後、短期大学での教育経験の後、博士に進学する頃には、国内にも魅力的なプログラム・先生方が多くおられましたが、よく考えた末、結局、修士の指導教官の母校（カリフォルニア大学サンフランシスコ校）に進学しました。博士の指導教官は、家族形成期のカップルと新生児の睡眠研究を行う方で、私は今日に至るまで、親子・夫婦などペアデータの面白さ・魅力・やっかいさを考え続けています。博士課程では、研究者を育てる看護系大学の教員としての基本姿勢を培いました。先生方は皆多忙なスケジュールの中でも、講義・演習・個人面談において、いつも院生に対して、ユーモアを交え勇気づけ、ご自身の学術資源を惜しみなく提供すると同時に自らの限界も示し、かつ、常に一定の距離感を保ち、一人の看護学者として尊重してくださいました。私にとって、移民も留学生も多かったあの地で得たすべてが、博士取得後、阪大を含め 3 校の大学院教育における教授法のバイブルとなりました。

着任して 9 か月が過ぎ、誠実で聡明な阪大の学部生・院生の皆さんと一緒に学べる日常に感謝する毎日です。これからもご指導・ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻
統合保健看護科学分野　生命育成看護科学講座
山　崎　　あ け み